今週のできごとから

2020.6. 26

勉強を忘れて楽しむ算数

1 年教室から聞こえてきます。
「勝ったー！」
「あ～ぁ、負けた」
算数の授業、数の大小を判別する学習です。
子ども達は机の上に 1 から 10 までのカードを裏返しにして置きます。そのなかの 1 枚を取りあげ、教師が大型テレビで映し出す数カードを待ちます。
子どもの選んだ数が教師より大きい場合は「勝ち」、教師より小さい場合は「負け」となります。

教師に勝ち、大喜びする子ども達

終わるたびに、「あと 1 回」「あと 1 回」・・・。何度も繰り返しています。勝ったことに大喜びをする子、負け続けてがっかりする子など、勉強していることを忘れて楽しんでいます。なかには、毎回10のカードを選び、勝負にこだわる子もいます。
知的な活動は感情を伴うほど記憶に残るといわれます。きっと忘れない学習となるでしょう。
担任教師によると、となり同士のペアで行いたい活動だが、「密接」を避けるために、この方法を思いついたそうです。

小走りに学校へ

高学年の男子児童が小走りに、コミ・セン前の横断歩道を渡って行きます。
背中にランドセル、両手に、体操服袋、水筒、テニスラケット、テニスのキャップを持ち、歩くことさえ窮屈そうです。
小走りに駆けていく彼を見た私は、背後から
「そんなに走ると、転ぶよ。まだ時間は十分あるよ」というと、
「きょうは、委員会の仕事があるので・・・」と答え、先を急ぎます。
彼は放送委員。きょうは当番らしいのです。
仕事に責任を持ち、役割を果たそうとする姿に彼の自覚を感じました。